

良子さんの ほっと一息ティータイム

美しい人 向田邦子

熊谷 良子 vol.19



向田邦子は、脚本家、エッセイストであり、直木賞作家です。

潔くて、懐が深く、凛とした人柄が、作品や語られていること、食べることや着こなしなどのあらゆる面で融合して、向田邦子が創りあげている独自の世界が美しい、向田邦子その人が美しいのです。

しかし、1981年、台湾での取材旅行中に航空機事故により、その美しい人は生涯を閉じることになりました。51歳でした。

向田邦子の作品には、癪性^{かんしょう}と気短さでよく怒鳴っているが、責任感の強い実直な父親、典型的な「昭和の父親」が登場し、その父を中心に家庭生活が営まれています。父は、家族を養い幸せにすることが自分の果たすべき役割だと、平身低頭しながら仕事に励みます。幼少期のつらい母子関係も背景にあります。

そのような父が、まだ字が書けない末娘を戦時中に学童疎開させるときに、自分の宛名を書いた葉書をもたせ、毎日マルを書いて投函するようになります。最初の大きかったマルは、次第に小マルになり、バツになり、やがて葉書は届かなくなります。衰弱した末娘が帰ってくる日、喜ばせるために家庭菜園のかぼちゃを全て収穫して待ち、娘の姿が見えると父は裸足で駆け寄り、痩せた肩を抱きしめ、声をあげて泣きます。

家族には、それぞれの家庭内での生活があると同時に、それぞれの人生があります。

日常生活の中で、関係が近ければ近いほど見えなくなりがちな思いやりや愛情が、

自分に向けられていると感じ取ることの大切さを、向田邦子さんは遺してくれたように思います。 2023. 12. 1

向田邦子書籍

『父の詫び状』『眠る盃』『阿修羅のごとく』『字のない葉書』

